

GDSの歴史

“GDS”という言葉は初めて耳にされた方も多いのではないのでしょうか。
GDSとは、航空券の予約・発券だけでなく、座席等のリクエストや発券など旅行に付随するあらゆる情報を取り扱うことのできるシステムです。

今では旅行に欠かせないGDSですが、どのようにしてGDSは誕生したのでしょうか。



GDSの歴史は米国に始まります。1950年代の航空会社における予約業務は、すべて人の手によって行われていました。電話で予約やキャンセルを受け付け、その都度台帳に記入していたのです。

しかし、1960年代になると大量輸送時代に入し、航空需要が急激に拡大します。このような環境の変化に伴い、予約の電話数やコストも増大し、従来の手作業での予約業務やサービス管理を行うのが困難になりました。

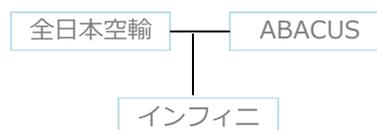
こうした事情により米国の航空会社は、利便性と業務効率化を求め、コスト削減のための手段として、自社で使用している予約システムを直接旅行会社に置こうと考えるようになりました。これがGDSのスタート地点といえます。

その後、GDSは業務改善・コスト抑制の「手段」から発展を続け、現在は航空会社の座席を販売・流通させる商業上の「強み」に進化してきました。



インフィニの誕生

1988年、米国・欧州連合のメガGDSに対抗する目的でアジアの航空会社を中心としたアバカス（ABACUS）が設立されました。アバカスは、アジアの航空会社にとって最も重要な地域であった日本市場へのアプローチを行っていました。



同時に全日本空輸も国際線進出により自社システムを日本の市場に展開しようとしており、両者がタッグを組んで1990年にインフィニが設立されたのです。

その後は会社沿革に記載の通り成長を遂げ、現在では日本市場においてシェア1位を誇り、唯一の和製GDSとして日本の航空旅行産業を支えています。